

(別添 1)

## 事業評価の結果（共通評価項目）

福祉サービス種別 保育所  
事業所名（施設名） 高甫保育園

## 第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
I 福祉サービスの基本方針と組織	1 理念・基本方針	(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人（保育所）内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</li> <li>■ 2 理念は、法人（保育所）が実施する保育の内容や特性を踏まえた法人（保育所）の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</li> <li>■ 3 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</li> <li>■ 4 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</li> <li>□ 5 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、保護者等への周知が図られている。</li> <li>■ 6 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</li> <li>□ 7 理念や基本方針を保護者会等で資料をもとに説明している。</li> </ul>	<p>・「須坂市こども・子育て支援事業計画（平成27年度～31年度）」を基にした市公立保育園としての「平成29年度ランドデザイン」があり、共通の保育理念として保育園の目的、地域における存在意義、使命や役割等を明確にしている。その理念に基づき市の保育園としての方針が定められており保育園の子どもと保護者に対する姿勢や地域との関わり方、職員の姿勢などについて示している。また、「平成29年度高甫保育園ランドデザイン」として当園の保育理念や子どもの発達過程に応じた独自の「養護」面・「教育」面の分かりやすい保育目標があり、市の理念や方針に連鎖している。当保育園のランドデザインは定例の職員会議で検討を加え作成されており、研修会や勉強会でも理念や方針について話し合い理解を深めている。利用者調査の結果から保育園の基本的な考え方（保育目標・保育方針）について無回答の方が多いこともあり、今後は保護者会や保育参観等、保護者の集まる機会に各年度の「保育園デザイン」を基に理念や基本方針について周知されることを期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
I	2 経営状況の把握	(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	■ 8	社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	・「須坂市子ども・子育て支援事業計画(平成27年度～31年度)」で公立保育園全体としての方向性が決められている。市教育委員会の担当課と連携し当保育園のある地域の利用者の推移予測や利用率の分析もされている。小学校校長・保育園長・幼稚園長合同連携会議、教師・保育士・幼稚園教授の交流などで子どもや保育のニーズ等も把握している。また、当園としても未就園児交流や園開放などを通じて地域のニーズを把握している。
			■ 9		地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。		
■ 10	子どもの数・利用者（子ども・保護者）像等、保育のニーズ、潜在的利用者に関するデータを収集するなど、法人（保育所）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。						
■ 11	定期的に保育のコスト分析や保育所利用者の推移、利用率等の分析を行っている。						
			② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	■ 12	経営環境や保育の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	・運営に関しては市教育委員会の担当部署の管轄で行われており、事業計画の実施状況や評価も市の「子ども子育て会議」で毎年度実施されている。また、公立保育園全体の園長会や補佐会等で市教育委員会担当部署から課題などが明らかにされており、当保育園の職員会議でも検討の場を設け、職員に意見を聞いたり課題について共有し解決に向けて組織的に取り組んでいる。特に、当保育園として可能な消耗品、修繕費等の経費節減に全職員で取り組んでいる。
■ 13	経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。						
■ 14	経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。						
■ 15	経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。						
	3 事業計画の策定	(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	■ 16	中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。	・「須坂市子ども・子育て支援事業計画(平成27年度～平成31年度)」でビジョンを明確にしている。保育園(認定こども園を含む)として「保育料の軽減」や「1, 3, 4歳児への保育士加配」、「公私立全園での0歳児保育の実施」などの具体的な目標が掲げられている。当保育園としての今年度の保育内容の中にも子どもの発達段階を踏まえ、それぞれの子どもの個人差や家庭環境に十分に配慮しながら、子どもたちが豊かな経験を積み重ね、子どもの健やかな成長を願って保育に当たることが上げられており、地域の子育て支援の拠点として地域の方に親しまれ、更に、信頼される保育園づくりに向けて職員の研修などに積極的に取り組んでいる。
■ 17	中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。						
■ 18	中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。						
■ 19	中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
I	3	(1)	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	■ 20	単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	・「須坂市子ども・子育て支援事業計画」や「平成29年度須坂市立保育園ランドデザイン」を基にした「平成29年度高甫保育園ランドデザイン」があり、「保育理念」や「保育目標」、具体的な取り組みなどが掲げられ実行可能な内容となっている。当保育園のランドデザインの保育目標の教育面には子どもの発達段階に合わせた5つの具体策が盛り込まれている。公立保育園という性格上難しいと思われるが計画などを可能な限り数値化し定量的な分析に繋げ、今後の課題解決に向けて取り組まれることを期待したい。
					■ 21	単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
					■ 22	単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
					□ 23	単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
		(2) 事業計画が適切に策定されている。	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	■ 24	事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	・当保育園としての今年度のランドデザインがあり職員会の中で意見が集約され、それが反映された事業計画となっている。また、市全体の園長会、園長補佐会、年齢別保育士研究会、給食献立会議等でも意見の集約・反映がされており、職員会や園内研修などで市や当園のランドデザインが周知されている。平成30年度に向けて市立保育園全体としての新しいランドデザインについての検討段階に入っている。
					■ 25	計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
					■ 26	事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
					■ 27	評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
		(2)	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	■ 29	事業計画の主な内容が、保護者等に周知（配布、掲示、説明等）されている。	・各クラスには今年度の市全体のランドデザインと当保育園のランドデザインが掲示されている。また、市教育委員会の担当部署からの通知等でも知らせている。ランドデザインに基づく行事計画等についても各月の園だより、クラスだより、行事ごとのたより等で説明している。今後は市全体や当保育園のランドデザインについて保護者会や保育参観等、保護者が集まる際にランドデザインに繋がるような保育、施設・設備を含む環境の整備等、子どもと保護者の生活に密接にかかわる内容を説明し、理解を促していくことを期待したい。
					□ 30	事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	
					■ 31	事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
					■ 32	事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	■ 33	組織的にPDCAサイクルにもとづく保育の質の向上に関する取組を実施している。	・今回が初めての第三者評価の受審であるが、毎年業績評価を行い、自己評価は年1回行っている。保育の質の向上については年齢別、クラス別の指導計画に基づき「月案→実行→月末評価→次月案策定」の流れができており、市立保育園のグランドデザインの結びの「評価の推進」という中にも「自己評価・保護者 地域の声・第三者評価」というPDCAサイクルが示されている。今後は当保育園全体としての自己評価や第三者評価の受審などを定例化し、更なる質の向上に取り組まれることを期待したい。	
				■ 34	保育の内容について組織的に評価（C: Check）を行う体制が整備されている。		
				□ 35	定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的受審している。		
				■ 36	評価結果を分析・検討する場が、組織として位置づけられ実行されている。		
		② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	■ 37	評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。		・毎年度、業績評価及び自己評価(年1回)を行っており、期末に年度の事業計画であるグランドデザインについての振り返りを行い、その結果を踏まえて課題を職員会で検討し改善策を考え次年度の計画に反映している。前項目に関連し、今後は保育園の組織全体として、自己評価や第三者評価の受審結果を分析し、更なる改善へと結びつけることを期待したい。
				■ 38	職員間で課題の共有化が図られている。		
				□ 39	評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。		
				□ 40	評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。		
				□ 41	改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		
		II 組織の運営管理	(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a		■ 42
■ 43	施設長は、自らの役割と責任について、保育所内の広報誌等に掲載し表明している。						
■ 44	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。						
■ 45	平常時のみならず、有事（災害、事故等）における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
II	1	(1)	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	■ 46	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者（取引事業者、行政関係者等）との適正な関係を保持している。	・園長は市の組織としての研修で地方公務員法等を学び、また、園長研修で労務管理や危機管理等についても学び、マニュアルの見直しや保育の手引き等で職員に必要な事項を伝え遵守できるよう指導・助言をしている。
					■ 47	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	
					■ 48	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
					■ 49	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	
		(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	■ 50	施設長は、保育の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	・園長は、各クラスの年間指導計画、月案、週案、個人経過記録等に目を通し、保育の質の現状について毎月、評価・分析を行っており、課題を把握し、改善に向けて指導をしている。また、保育室に入室したり、子どもの昼食の状況を確認するなど、実際の保育と照らし合わせ把握し、良い点、改善点等を職員に具体的にアドバイスしている。更に、クラス会議や職員の園内研修等にも参画し、外部研修についても計画的に取り組み、職員の資質の向上を図っている。
					■ 51	施設長は、保育の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
					■ 52	施設長は、保育の質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
					■ 53	施設長は、保育の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
		(2) 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	② 経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	a	■ 55	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	・園長は労務管理、保育運営管理、事務、渉外、財務等の視点から検証を行い、業務の効率を高めるための改善に取り組んでいる。クラス担任、加配保育士、パート保育士などを効果的に配置し、休憩時間の取得や残業時間の削減等にも努め、職員の働きやすい環境づくりに取り組んでいる。園として可能な消耗品費や修繕費等の削減にも努めている。
					■ 56	施設長は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
					■ 57	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、組織内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
					■ 58	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
II	2 福祉人材の確保・育成	(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	■ 59 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	・市としての保育士、調理師等の配置基準があり、市教育委員会の担当部署が統括し、市公立保育園全体で正規職員、嘱託職員の確保が計画的に行われている。保育士不足の中、より多くの人材確保のために取り組んでおり、新規採用や社会人枠採用等を行っている。当保育園でも正規職員、嘱託職員に加え、朝夕延長のパート保育士、休憩代替パート保育士などで人員を確保している。人材育成という面では研修計画等に基づき外部及び園内研修や担当する子どもの年齢別職員研修等があり、職員の保育の質の向上に努めている。福祉の職場説明会で市の保育園職員が市としてのプレゼンテーションを行ったり、保育士を目指す学生の実習の受け入れを行うなど、人材確保にも取り組んでいる。
			■ 60 保育の提供に関わる専門職の配置、活用等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。		■ 61 計画にもとづいた人材の確保や育成が実施されている。	
② 総合的な人事管理が行われている。	a	■ 63 法人（保育所）の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	・年度初めに「全国保育士倫理綱領」や「公立保育士としての心得」などを読み合わせ公立保育園の保育士としてどうあるべきか、期待する職員像を明確にしている。人事基準については年度当初に一人ひとりの職員に渡されている。職務に関する成果や貢献度等については目標管理シートや能力評価シートが用いられ、自ら立てた目標に対しての自己評価を行い園長補佐や園長と面談し振り返りを行っている。市の職員という立場から経験や習熟度に合わせ市の「自分成長基本方針ワークショップ」に参加したり、キャリアアップ研修などにも参加しレベルアップを図り、公立保育園全体としての底上げも図っている。			
■ 64 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。		■ 65 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。				
■ 66 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		■ 67 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。				
■ 68 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
II	2	(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	■ 69 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<p>・園長が労務管理の責任者で、出勤簿、休暇、欠勤簿などで就業状況を把握し、職員の健康と安全の確保については市総務課で担当している「ホッとする相談室」に相談をすることができる。市職員の保健師が各保育園を定期的に巡回しストレスチェックや健康診断、労働安全衛生等について職員を指導している。休暇の取得についても年度当初に職員の希望を聞き入れ職員間で調整しており、また、園長との面談を年1回行い、更に、随時の相談も行うことができる。福利厚生については市の福利厚生に順じており、保育士の休憩室も確保されており、市職員の共済会の慶弔見舞等も実施されている。本人の希望により、介護や育児などの状況に合わせて休暇が取得でき、仕事と生活の両立という面でも配慮がされている。福祉人材の確保、定着の観点から、超過勤務時間の削減、朝夕延長代替保育士や休憩時代替保育士の確保、育休取得時の代替保育士の配置等も実施されている。</p>
					■ 70 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	
		■ 71 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。				
		■ 72 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を組織内に設置するなど、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。				
		■ 73 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。				
		■ 74 ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。				
		■ 75 改善策については、福祉人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。				
		■ 76 福祉人材の確保、定着の観点から、組織の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。				
		(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	■ 77 組織として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<p>・市としての「自分成長基本方針ワークショップ」が開催されており、経験や習熟度に合わせ目指す職員像について段階的に学習している。また、年度初めに「公立保育士としての心得」などを読み合わせ期待する保育士としての職員像を明確にしており、同じく年度当初に自らの職務内容を明らかにした目標管理シートを作成している。自分で立てた目標に対しての自己評価を期末に行い園長補佐や園長と面談し、職員一人ひとりが目標達成に向けての取り組み状況を振り返り、組織全体として成果を出せるようにしている。更に、設定した目標についての進捗状況の確認を行う中間面接も園長補佐と行われている。</p>
			■ 78 個別面接を行う等保育所の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。			
			■ 79 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。			
			■ 80 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。			
			■ 81 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント		
II	2	(3)	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	■ 82	保育所が目指す保育を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	・市立保育園のグランドデザインには保育士としての「信頼 笑顔・温かさ チームワーク」という囲みがあり、子どもや保護者から見た保育士の姿について示している。当保育園でも年度当初、テーマ別にグループを作り、ディスカッションする勉強の場を設けている。また、市全体として園児の各年齢に合わせた年齢別研究会、特別支援研究会、公開保育などが組まれている。更に、園長会、園長補佐会、給食部会等もあり、週1回行われる職員会で報告や方針の説明があり内容を共有している。年度末には研修会のアンケートや報告書を基に評価・見直しを掛け、次年度へと繋げている。	
					■ 83	現在実施している保育の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、保育所が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。		
					■ 84	策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。		
					■ 85	定期的に計画の評価と見直しを行っている。		
					■ 86	定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		
			③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	■ 87	個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。		・園長が職員の資格取得状況について把握している。長野県社会福祉協議会の実施する福祉職員生涯研修の新任職員課程や中堅職員課程、主任保育士課程、管理者課程等、それぞれに合わせた研修が公立保育園全体で実施されている。市職員としての研修については市担当部署より研修案内が来るため交代で参加している。外部研修に関しては市担当部署からの情報提供に加え各自情報を収集し、市保育連盟主催の研修に参加したり、体育指導や食育指導等の研修にも自発的に参加している。また、園内研修もテーマを絞り毎週行われる職員会議で実施されており、外部研修参加者の報告なども職員会で行われている。新任職員は未満児のクラスに配属されることが多く先輩職員によるOJTが行われている。
					■ 88	新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。		
					■ 89	階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
					■ 90	外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。		
					■ 91	職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。		



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
II	2	(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	<p>■ 92 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。</p> <p>■ 93 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。</p> <p>■ 94 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。</p> <p>■ 95 指導者に対する研修を実施している。</p> <p>■ 96 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。</p>	・実習生への対応については園長が行い、次代を担う保育士等の育成に積極的に取り組んでいる。「保育実習及び交流学习に参加の皆様へ」という文書があり、保育士や看護師などの資格取得を目指す実習生を受け入れている。学校の先生が園を訪問し、プログラムについての打ち合わせを行い、実習生への事前オリエンテーションも実施し、実習のねらいや希望等を聞く機会もある。また、中間で実習生と学校の先生が面談をしたり実習生の疑問点等が解決できるように実習ノートなどを基に振り返りもを行っている。
	3 運営の 透明性の 確保	(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	<p>■ 97 ホームページ等の活用により、法人、保育所の理念や基本方針、保育の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p>■ 98 保育所における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。</p> <p>■ 99 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。</p> <p>■ 100 法人（保育所）の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人（保育所）の存在意義や役割を明確にするように努めている。</p> <p>□ 101 地域へ向けて、理念や基本方針、事業所で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p>	・公立保育園全体としての予算や決算等の概要が市の広報紙等に載っている。「須坂市子ども・子育て支援事業計画(平成27年度～31年度)」には「子どもは`宝プロジェクト`」として基本目標、事業計画などが掲載されている。また、市のホームページ等にも当保育園の情報を公開をしている。第三者評価についても今年度の受審分が県のホームページ等を通じて公表される予定になっている。今後、地域に向けて、当保育園としてのランドデザインなどを用いて保育理念や保育目標の周知を図ることを期待したい。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
II	3	(1)	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	<p>■ 102 保育所における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。</p> <p>■ 103 保育所における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p>■ 104 保育所における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。</p> <p>■ 105 保育所における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p>□ 106 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。</p> <p>□ 107 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p>	・職務分掌や事務の手引きにより、園長が自ら事務、渉外、財務等の役割を担っており、職員にも周知されている。また、取引についても市として決められた業者との間で実施されている。公立保育園として市の内部監査を定期的にかけており、県の監査も定期的にかけている。
	4 地域との交流、 地域貢献	(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	<p>■ 108 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p>■ 109 活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で保護者に提供している。</p> <p>■ 110 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p>■ 111 保育所や子どもへの理解を得るために、地域の人々と子どもとの交流の機会を定期的に設けるなどの取組を行っている。</p> <p>■ 112 個々の子ども・保護者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p>	・平成27年度から31年度までの「須坂市子ども・子育て支援事業計画」の中で「子どもは宝プロジェクト」として文書化し、「地域の子どもは、地域で育てる」、「子どもを産み、育てやすいまち」を目指し、家庭、地域、団体、企業、行政が連携しそれぞれできることを行っていく必要があることを謳っている。それに沿い当保育園でも地域の保育に関する子育てセミナーやイベントのチラシなどを掲示したり、育児相談、ファミリーサポートなどについてもポスターを張り出している。「高甫地区六者会議」があり、地域選出の市議員、地域の区長会長、警察駐在所員、JA支所職員、高甫小学校長、地区公民館長、当保育園園長などが出席し地域との連携を図っている。また、また地域の高齢者の集いでも歌などを披露し交流している。散歩コースは年齢に応じていくつかのコースがありその途中で地域の人々とも挨拶を交わしている。地域の役員などを運動会やクリスマス会などに招待したり、園開放、年長クラスの小学校生との交流、中学生や高校生の職場体験やボランティア活動の受け入れなども行っている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
II	4	(1)	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	■ 113	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<p>・「須坂市子ども・子育て支援事業計画」には「子育て支援グループ、地域ボランティアとの協働推進」が上げられている。また、地域の学校教育等への協力についての姿勢も「幼・保・小、須坂支援学校の連携」として明記されている。中学生や高校生の職場体験の受け入れや隣接の小学校の児童などとの交流も実施されている。更に、地区の野菜作りのマイスター(名人)や手作り仕込み味噌の「豆っこの会」、サッカー教室、絵本読み聞かせの「りんどう会」などのボランティアとも定期的なふれあっている。「小中学生ボランティアの皆様へ」や「保育体験活動に参加される皆様へ」という文書がボランティア初日に手渡され説明もされている。今後、ボランティア対応マニュアルなどの作成を行い、更に理解を得られるように取り組まれることを期待したい。</p>
					■ 114	地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	
		□ 115	ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。				
		■ 116	ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。				
		■ 117	学校教育への協力を行っている。				
		(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	■ 118	当該地域の関係機関・団体について、個々の子ども・保護者の状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<p>・「須坂市子ども・子育て支援事業計画」で関係する機関を一覧することができ、子育て支援センター、児童センター、児童クラブ、保健センター、就学前児童療育施設などと連携したり、幼・保・小連絡会議、保育士による小学1年生授業参観などに職員が出席し、参加した職員から内容を聞き園内での共有化も図り問題解決に向けて協働している。また、必要性が生じた時には、児童相談所、特別支援学校等とも連絡を取り、課題解決に向けて協働している。</p>
		■ 119	職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。				
		■ 120	関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。				
		■ 121	地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。				
		■ 122	地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子ども・保護者のアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。				
			■ 123	家庭での虐待等権利侵害が疑われる子どもへの対応について、要保護児童対策地域協議会への参画、児童相談所など関係機関との連携が図られている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
II	4	(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a	■ 124 保育所のスペースを活用して地域の保護者や子ども等との交流を意図した取組を行っている。	・当保育園でも年度初めや年度末を除きほぼ毎月、未就園児交流の場を設けており、未就園児と保護者が園内で遊んだり、園児と交流している。また、園庭やホール、園舎の中の開放も行っている。更に、保護者会主催の「子育てセミナー」なども行っている。保育園として万が一の場合は地域の人々の避難所としての機能も果たせるようになっている。国政選挙などの地区の投票所として遊戯室が使用されている。
					■ 125 保育所の専門性や特性を活かし、地域の保護者や子ども等の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	
	■ 126 保育所の専門性や特性を活かした相談支援事業、子育て支援サークルへの支援等、地域ニーズに応じ地域の保護者や子ども等が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。					
	■ 127 災害時の地域における役割等について確認がなされている。					
	■ 128 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。					
		② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	■ 129 保育所の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	・未就園児交流や一時的保育をしたり、運動会、クリスマス会などの行事への参加を呼びかけ、地域の子育てニーズに応えている。また、民生児童委員、主任児童委員を園の行事に招待し、地域のことについての情報交換を行ったり園のことについても知っていただくようにしている。子育て支援センターや親子通園施設、当保育園に隣接する地域の小学校とも連携し特別支援などについてのニーズも把握している。地区の高齢者の集いに参加し歌などを発表し交流している。	
		■ 130 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。				
		■ 131 地域住民に対する相談事業を実施するなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。				
		■ 132 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。				
		■ 133 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。				
		■ 134 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ 適切な福祉サービスの実施	1 利用者本位の福祉サービス	(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 135 理念や基本方針に、子どもを尊重した保育の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</li> <li>■ 136 子どもを尊重した保育の提供に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</li> <li>■ 137 子どもを尊重した保育に関する基本姿勢が、保育の標準的な実施方法等に反映されている。</li> <li>■ 138 子どもを尊重や基本的人権への配慮について、組織で勉強会・研修を実施している。</li> <li>■ 139 子どもを尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</li> <li>■ 140 子どもが互いを尊重する心を育てるための具体的な取組を行っている。</li> <li>■ 141 性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮している。</li> <li>■ 142 子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、その方針等を保護者に示すとともに、保護者も理解を図る取組を行っている。</li> </ul>	<p>・「運営規程」や「重要事項説明書」、「須崎市立保育園グラデザイン」、「高甫保育園ランドデザイン」等には理念や基本方針の他、子どもを尊重し保育や養護にあたる基本姿勢が明示され標準的な保育が実践されている。園内研修、外部研修（CAPワークショップ、人権擁護等）に積極的に参加し、職員会議等で全体共有している。また、5歳児を対象にした研修（CAPワークショップ）に参加、「人権感覚」や「自分の身を守る方法」、「自己肯定感」等を学び子どもが互いを認め尊重する心を育てる取り組みを行うと共に、保護者にも外部研修（CAPワークショップ）への参加を呼びかけている。日常的には登園や降園児の日々の会話、保育参観、お便りや連絡帳でのやりとりで「子どもを尊重した保育や尊厳」について理解を得られるよう折にふれ説明し取り組みを行っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	1	(1)	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	■ 143 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	・「プライバシー保護・虐待に関するマニュアル」や外部研修で用いた資料を活用し、園全体で研修を行い理解を深めている。年齢別に使用しているトイレは子どもの発達段階に応じてトレーニングができる設えであり、外部からは直接目に触れない環境であった。排泄や着替え等の生活場面においても、子ども達の発育に合わせて、適宜配慮や工夫をしていると職員インタビューより聞きとることができた。
		■ 144 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。				
■ 145 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、利用者のプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。						
■ 146 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。						
■ 147 子ども・保護者にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。						
■ 148 規程・マニュアル等にもとづいた保育が実施されている。						
■ 149 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。						
		(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	■ 150 理念や基本方針、保育の内容や保育所の特性等を紹介した資料を、公共施設等の多くの人が入手できる場所に置いている。	・須坂市子ども課のホームページがありインターネットで自由に閲覧することができる。保育園の見学希望には園長が対応している。また、「須坂市の幼稚園・保育園・認定子ども園」の冊子や「高甫保育園」のパンフレット等があり、写真や図などを使用した分かりやすい内容となっており、須坂市子ども課、各保育園、支援センター、保育センター等に置かれている。
■ 151 保育所を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。						
■ 152 保育所の利用希望者については、個別に丁寧な説明を実施している。						
■ 153 見学等の希望に対応している。						
■ 154 利用希望者に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	1	(2)	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	■ 155 保育の開始及び保育内容の変更時の説明と同意にあたっては、保護者等の意向に配慮している。	・保育の開始前には「保育園のしおり」や市より決定された「支給認定決定書」を基に保護者一人ひとりに詳しく説明がされている。保育開始後、その内容に変更がある場合は、再度丁寧な説明を行い同意を得ながら進めている。
			■ 156 保育の開始・変更時には、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。			
■ 157 説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。						
■ 158 保育の開始・変更時には、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。						
■ 159 特に配慮が必要な保護者への説明についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。						
			③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	■ 160 保育所等の変更にあたり、保育の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	・保育所の変更については「公立保育園確認事項」により細かく定められており、手順に沿って対応がされている。利用終了後も園長が窓口となり相談ができる体制が整っている。情報共有のための書類は子どもに不利益が生じないように配慮された統一様式があり必要事項を記入し提供している。
			■ 161 保育所の利用が終了した後も、保育所として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。			
			■ 162 保育所の利用が終了した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	1	(3) 利用者満足の上昇に努めている。	① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	■ 163 日々の保育のなかで、子どもの満足を把握するように努めている。	・須崎市立保育園全園を対象に保護者会でアンケート（年2回）を実施している。アンケート結果については、子ども課や教育長、各園の園長が出席して全体で共有し検討・分析を行い満足度の上昇に努めている。そのアンケートの中から当保育園のアンケート結果も抽出することができ、それを基に職員会で話し合い課題を抽出し結果を保護者懇談会や保育参観時等に園長より報告している。今年度より個別面談を計画し実施している。
					■ 164 保護者に対し、利用者満足に関する調査が定期的に行われている。	
		■ 165 保護者への個別の相談面接や聴取、保護者懇談会が、利用者満足を把握する目的で定期的に行われている。				
		■ 166 職員等が、利用者満足を把握する目的で、保護者会等に出席している。				
		■ 167 利用者満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、検討会議の設置等が行われている。				
		■ 168 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。				
		(4) 利用者が意見を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	■ 169 苦情解決の体制（苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置）が整備されている。	・園では、入園前の説明会や折にふれ、苦情の申し出についての説明を行い苦情解決の体制があることを説明し、資料の配布も行っている。また、事務室前には苦情解決の仕組みと窓口、担当者、第三者委員について掲示し、玄関にはエンゼルボックス（苦情箱）も設置し意見を言い出しやすいような環境作りと対応を心掛けている。記録は所定の様式に記録されている。苦情相談内容は職員全体で把握し分析、改善点や対応策は保護者会の三役に報告し園全体で周知している。記録された文書は園長が保管している。
		■ 170 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。				
		■ 171 苦情記入カードの配布やアンケート（匿名）を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。				
		■ 172 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。				
		■ 173 苦情内容に関する検討内容や対応策については、保護者等に必ずフィードバックしている。				
		■ 174 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た保護者等に配慮したうえで、公表している。				
		■ 175 苦情相談内容にもとづき、保育の質の向上に関わる取組が行われている。				



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
Ⅲ	1	(4)	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	■ 176 保護者が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に行うことをわかりやすく説明した文書を作成している。	・事務室入り口に文書を掲示し、保育についての相談等について複数の方法や相手を自由に選べることを園便りや様々な場面で保護者に伝えている。日頃から保護者とのコミュニケーションをとり、何時でも意見が言える雰囲気作りと公平な対応をしている。表出された相談や意見は職員会議等で共有し保育の質の向上に役立てている。
			■ 177 保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		■ 178 相談しやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	
③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	■ 179 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	・連絡帳や送迎時のやり取り、意見箱の設置、日々の関係づくり等で相談や意見を言いやすい雰囲気作りに向け、出された意見などを職員会議で話し合い、改善に向けて具体的に取り組み、意識改革を行うと共に保育の質の向上を図っている。また、園内研修でも適切な相談対応等について学び、傾聴に努めている。			
■ 180 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		■ 181 職員は、日々の保育の提供において、保護者が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。				
■ 182 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者の意見を積極的に把握する取組を行っている。		■ 183 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。				
■ 184 意見等にもとづき、保育の質の向上に関わる取組が行われている。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
Ⅲ	1	(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	■ 185	リスクマネジメントに関する責任者の明確化（リスクマネージャーの選任・配置）、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	・「教育、保育施設における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」があり、事故防止、再発防止のための取り組みを明確にし全体に周知している。園長補佐会には危機管理グループがあり公立保育園におけるヒヤリハット事例集を基に要因分析、改善策などを検討し、再発防止に向けて具体的に取り組んでいる。交通安全指導計画では毎月の街頭指導（3・4・5歳児）や安全指導を行い、親子交通安全教室では実際に信号を渡るなどの安全指導を受けている。園で発生したヒヤリハット事例については毎週行われる職員会議の中で定期的（月1回）に話し合い、再発防止に努めている。アレルギー児に対応するための知識と事故発生時の迅速な対応手順、応急処置（エビベン等）の方法などを全職員で習得するための学習会を行い、緊急時のアレルギー対応手順をいたるところ所に掲示し緊急時に備えている。
					■ 186	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順（マニュアル）等を明確にし、職員に周知している。	
					■ 187	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
					■ 188	収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
					■ 189	職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
					■ 190	事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
					■ 191	感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
			② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	■ 192	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	
					■ 193	担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
					■ 194	感染症の予防策が適切に講じられている。	
					■ 195	感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	
					■ 196	感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	
					■ 197	保護者への情報提供が適切になされている。	
					■ 199	日常的な予防策として手洗いとうがい習慣をつけるように指導している。また、園便りに掲載し、送迎時に感染症の予防や発生状況等を伝えている。毎年発生時期前には市の子ども課よりインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症の対応と蔓延防止のための対応方法が具体的に示された通達が届き、園全体で周知徹底している。更に厚生労働省発行の「保育所における感染症対策ガイドライン」を参考に、発熱、下痢、嘔吐、咳、発疹時等の指標とし対策を練っている。各クラスには対応マニュアルが掲示され、日々取り組んでいる。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	1	(5)	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にやっている。	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 198 災害時の対応体制が決められている。</li> <li>■ 199 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、保育を継続するために必要な対策を講じている。</li> <li>■ 200 子ども、保護者及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。</li> <li>■ 201 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。</li> <li>■ 202 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルや園の消防計画があり災害時の体制が決められている。また、「風水害等や火災発生予測時における保育園での対処方針」や「不審者への緊急対応フローチャート、緊急事態（不審者侵入時）」も作成し、訓練も実施している。非常災害訓練計画を年間計画として立案し、毎月、詳細な計画を練り「ねらい」を定めて実施している。訓練内容は想定別（火災・地震・台風・煙・不審者侵入・園長不在時等）に行い、引渡し訓練やDVD鑑賞、非常時のメール送信等も取り入れている。食料（アルファ米、菓子等）、飲料水等を給食室で保管している。今年度初の試みである合同訓練には隣接の小学校や地元の消防団も参加し実施し、連携を強化している。玄関には緊急用持ち出し用のリュックと不審者侵入時に使う「さすまた」が準備され万が一に備えている。</li> </ul>
Ⅲ	2 福祉サービスの質の確保	(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 203 標準的な実施方法が適切に文書化されている。</li> <li>■ 204 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。</li> <li>■ 205 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</li> <li>■ 206 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</li> <li>■ 207 標準的な実施方法により、保育実践が画一的なものとなっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育指針、幼児保育マニュアル、未満児保育マニュアルがあり、子どもの尊重、プライバシー保護や権利擁護に関わる姿勢も明示されている。月案、週日案で実施状況を評価し職員会で話し合い、各種マニュアル等を用いて研修も行い全職員で周知徹底を図っている。「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の領域を視点とした年間計画があり、その指導計画に沿って支援をしている。保育要録記入の手引きに沿って各種計画書を作成している。個人記録、週日案は園長が最終確認を行い、毎月の振り返りをしている。</li> </ul>
			② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 208 保育の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が組織で定められている。</li> <li>■ 209 保育の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。</li> <li>■ 210 検証・見直しにあたり、指導計画の内容が必要に応じて反映されている。</li> <li>■ 211 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週行われる職員会議や日常的なやり取りで保育の現況を検証している。「保育の計画→実践→自己・保護者・地域からの評価→課題・職員の共通認識・自己研鑽→保育の向上」というPDCAサイクルの仕組みを明確にし、日常的に保育を実践している。保護者、保育士の意見を集約し実践状況を検証するため、会議等にて検討していることが記録から確認できた。</li> </ul>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
Ⅲ	2	(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	a	■ 212 指導計画策定の責任者を設置している。	・所定のアセスメント様式があり保育開始前にアセスメントを実施し、その後は子ども、保護者の状況により必要に応じて再アセスメントを行い現状を把握している。各職種、関係者が参画する会議では個別計画の根拠となる課題の抽出やねらいを検討し、保育課程に基づき各種指導計画を策定している。障がいを持つ子どもや支援困難なケースは子どもの発達状況や家庭環境に合わせた養護と保育が一体的に提供できるよう、相談支援事業所や市担当課などから助言を得て指導計画を作成し、園全体で共有している。また、専門機関や専門職が集まり支援会議を行い検討し、対象児童に合わせた養護と保育が行えるよう取り組んでいる。指導計画の実施後は評価を行い次回の計画に活かしている。
			■ 213 アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。			
■ 214 さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。						
■ 215 保育課程にもとづき、指導計画が策定されている。						
■ 216 子どもと保護者等の具体的なニーズ等が、個別の指導計画等に明示されている。						
■ 217 計画の策定にあたり、さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加しての合議、保護者の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。						
■ 218 指導計画にもとづく保育実践について、振り返りや評価を行う仕組みが構築され、機能している。						
■ 219 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な保育の提供が行われている。						
			② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	■ 220 指導計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	・園長補佐会で見直しの時期や手順が検討されている。個別懇談会、保育参観、日常的なコミュニケーション等で、保護者の意向を把握し指導計画の見直しの材料としている。職員会議では保育士からの意見も参考にし評価、見直しを行い、具体的な保育方法等を検証、共有し、次回の指導計画の作成に活かしている。見直された指導計画は目標・ねらいに妥当性があり保護者の意向も反映されていた。
			■ 221 見直しによって変更した指導計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。			
			■ 222 指導計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。			
			■ 223 指導計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、子ども・保護者のニーズ等に対する保育・支援が十分ではない状況等、保育の質の向上に関わる課題等が明確にされている。			
			■ 224 評価した結果を次の指導計画の作成に生かしている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
Ⅲ	2	(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	■ 225	子どもの発達状況や生活状況等を、保育所が定めた統一した様式によって把握し記録している。	・発達状況や生活状況等は統一された様式により把握、記録されている。個別指導計画では常に「ねらい・評価・反省」を繰り返し行い計画に即した養護と保育が実施されている。保育要録記入の手引きを活用し記録のばらつきや差異が生じないように工夫し、回覧版や職員用ホワイトボードを活用して必要な情報が的確に共有できるようにしている。
			■ 226		個別の指導計画等にもとづく保育が実施されていることを記録により確認することができる。		
■ 227	記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。						
■ 228	保育所における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。						
■ 229	情報共有を目的とした会議の定期的な開催等の取組がなされている。						
			② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	■ 230	個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	・毎年、年度始めに市より「個人情報保護について」の通達があり、園長から全職員に取り扱いや守秘義務、漏えいについての正しい理解を深めるための説明を行い、全職員に配布している。保護者には「個人情報の取り扱いと使用範囲」について入園説明会や継続説明会等で話し同意を得ている。園長は市の研修を受講し、園内研修を実施し理解度をパソコンで確認している。手引書には記録の保管、保存、廃棄、情報提供に関する規定が定められており遵守している。
■ 231	個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。						
■ 232	記録管理の責任者が設置されている。						
■ 233	記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。						
■ 234	職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。						
■ 235	個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。						